

## 地震保険の加入状況について

東日本大震災以降、熊本地震をはじめ大きな被害を被った地震は70件を越え、今年も福島沖（震度6強）や日向灘（同5強）などの地震で住宅に被害が出ている。2020年度の都道府県別の地震保険の加入状況を見ると、兵庫県は阪神淡路大震災で被害を受けたにも関わらず32.3%と全国平均の33.9%よりも低いことが気にかかる。

### 地震保険発足の経緯

地震保険は「地震・噴火・津波を直接または間接の原因とする火災・損壊・流出による損害」を補償の対象とする保険である。大地震の損害額は巨額に上るため、その損害は明治期の火災保険制度発足以来、補償の対象外とされてきた（火災保険の地震免責）。1964年の新潟地震をきっかけに「地震保険に関する法律」が成立、国が再保険を引き受ける地震保険制度がつけられた。地震保険の加入は、阪神淡路大震災を契機に普及が進み、東日本大震災の発災時も加入数が伸びた（図1、2の全国）。

### 都道府県別の地震保険の加入状況

都道府県別の状況は、兵庫県・大阪府・京都府では阪神淡路大震災時に加入率を大きく伸ばした。東北3県（岩手県・宮城県・福島県）でも東日本大震災時に大幅に伸びている。一方、阪神淡路大震災時の東北や、東日本大震災時の関西の伸びはそれほどでもないなど（図1、2）、震災の被害

を直接受けていない府県の関心は総じて小さい。兵庫県の加入状況はなぜそれほど高くないのか

東日本大震災が発生した時、兵庫県では地震がどう受け止められただろうか。2011年に（公財）ひょうご震災記念21世紀機構が実施した調査に「巨大地震に備えていること」という質問がある。回答が多かった項目のうち「家具の転倒・落下防止策を講じている」は兵庫県では全体より8.4ポイント低く、上位10項目中9項目が全体を下回った。一方、「特に備えていることはない」との回答は全体より3.7ポイント多かった（表1）。

また、「お住まいの地域に巨大地震災害が起きると思うか」との質問に「思わない」との回答は、兵庫県は68.3%と全体の47.6%を大きく上回った。理由を問うたところ、兵庫県では「阪神淡路大震災が来たので、もうしばらく来ないと思っている」「人生で2回も体験はしないだろう」といった回答が見られ、楽観的な見解のもとで備えが十分でないことがうかがわれる。

### 兵庫県の施策

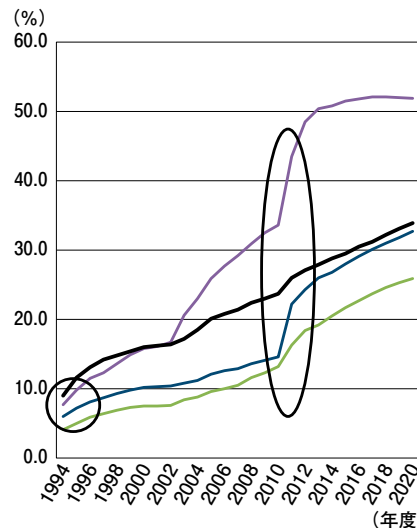
兵庫県は自然災害で被災した住居の再建に備える県独自の制度「兵庫県住宅再建共済制度」通称「フェニックス共済」を2005年9月から開始した。地震保険が火災保険の半額を上限とすることを補う制度だが、県内の加入は9.6%にとどまる。巨大地震が発生してからでは遅い。防災対策を見直し、あらゆる災害への備えを万全にしておくことが求められる。（主任研究員 半田 尚之）

表1 巨大地震災害に備えて行っていること  
(複数回答、%、上位10位 回答総数に対する比率)

行っていること	全体	兵庫	全体との差
プレーカーやコンセントの位置を確認している	40.1	35.0	▲ 5.1
家具の転倒、落下防止策を講じている	33.7	25.3	▲ 8.4
消火器などを用意している	27.3	25.3	▲ 2.0
非常持ち出し品を準備している	26.7	19.8	▲ 6.9
新聞、テレビやインターネットなどから、防災の知識を身につけておく	25.2	23.6	▲ 1.6
ガスを使わない時には、ガス栓を閉めるなど、火気器具の周りを整理	24.8	24.4	▲ 0.4
不必要な家電製品のコンセントは抜いている	24.3	23.4	▲ 0.9
風呂の浴槽にいつも水を入れている	21.4	21.9	▲ 0.5
家族との連絡方法を決めている	17.5	16.9	▲ 0.6
家族が離れ離れになった時に、落ち合う場所を決めている	16.2	14.8	▲ 1.4
特に備えていることはない	19.6	23.3	3.7

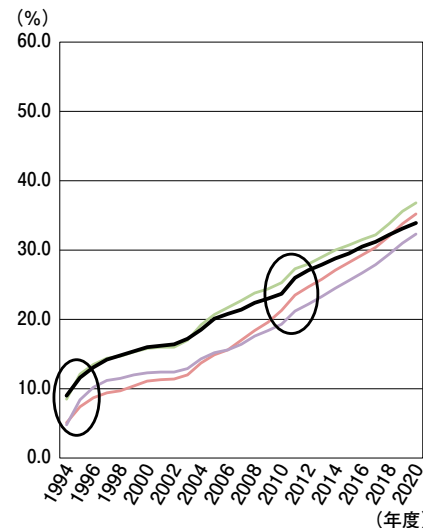
資料) (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構「巨大地震災害に関する市民意識調査」より弊財団が作成  
全体: 神戸市(750人)、淡路島(50人)、静岡市(400人)、浜松市(400人)

図2 県別世帯加入率推移 (東北)



資料) (一社) 日本損害保険協会「地震保険 都道府県別加入率の推移」より弊財団が作成

図1 府県別世帯加入率推移 (近畿)



資料) (一社) 日本損害保険協会「地震保険 都道府県別加入率の推移」より弊財団が作成